

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	総合政策研究科
大項目	9 教育研究等環境 (研究科)
中項目	
小項目	9.0.4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。
要素	教育課程の特徴、学生数、教育方法等に応じた施設・設備の整備 ティーチング・アシスタント(TA)・リサーチ・アシスタント(RA)・技術スタッフなど教育研究支援体制の整備 教員の研究費・研究室および研究専念時間の確保

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 建築士コース等のカリキュラム上必要となる実習環境を整備する	→機器・備品の購入数	A	A	A	A	A
2. 共同研究室の院生利用マニュアルを策定するとともに、利用者の満足度を向上させる	→マニュアル策定の有無、アンケート調査による満足度	D	D	C	B	B
3. 教員に対して外部資金導入を奨励する	→外部資金の獲得件数	B	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 総合政策研究科の建築士コース等の実習環境は、目標設定後、大学院FD・カリキュラム委員会ならびに建築士プログラム委員会によって整備を進めてきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 総合政策研究科のカリキュラムは2012年度に完成年度を迎えたが、その際、建築士コース等に必要実習環境の整備は終了した。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後、2016年度からの新たな大学院カリキュラム改訂にあたり、実習環境のさらなる改善に向けて、建築士プログラム委員会を中心に検討を進めていく予定である。	☆
		その他	☆

目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 大学院共同研究室については、大学院FD・カリキュラム検討委員会を中心に、全員の学習スペースならびに共同スペースの確保を目指して、整備を検討してきた。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年4月には、大学院共同研究室に個別の学習スペースと研究成果発表の場としてのスペースを整備することができた。2013年度からは、この共同スペースにおいてドーナツ・アワーを定期的実施している。また、その運用実績をもとに、運営方針等の整備を進めている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2016年度からのカリキュラム改訂に向けて、さらに効率的な学習空間の実現をめざして、大学院FD・カリキュラム検討委員会を中心に検討していく予定である。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 総合政策学部と同様に、学部長室委員会や研究科委員会を通じて、外部資金の導入について奨励している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2013年度は文部省科学研究費の新規採用が申請8件に対して、採用は4件で採択率は50%であった。申請数は2009年度以降10件前後を変動しているが、採択率は最高であった。ただし、申請率(新規・継続)は22%にとどまり、他の文系学部と比べて低いレベルにとどまっている。今後も引き続き申請の奨励に努めていきたいと考えている。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 総合政策学部研究会等を通じて、学部の特徴を活かした共同研究を促進し、文理融合型の計画等の企画・申請を促進したい。	☆
		その他	
			☆
備考			☆